

夫の心を開く

明治三十年（一八九七年）、リンは過勞のため、病いの床から起きられなくなりしました。

「わたしは、病気で休みがちですが、たくさんの園児の皆さんに、けががないよう、毎日神さまにお祈りしています。」

リンの頭の中は、幼稚園のことがいつも離れませんでした。幼稚園長として、また、女学校の責任者として、いろいろとむずかしい問題をかかえたりんは、家庭にあつては、信仰の上で夫に一步もゆずれないという緊張が続いていました。

リンは健康をとりもどすことなく、幼稚園や女学校の経営のために働き続け